

＜活動名＞ 協働活動を通じた「生きがい・やりがい」につながる
地域の活性化（地域づくり）と学校教育の充実
～地域を教育活動の場に、学校を教育活動の場に～

山口県立萩総合支援学校

1 本事業の目的

現在、少子高齢化や核家族化、地域のつながりの希薄化など、社会環境が大きく変化する中、子どもがいろいろな世代の人と触れあう機会が少なくなり、体験活動の不足や社会性・規範意識の低下、自己肯定感の低下等、子どもの育ちに関する様々な課題が指摘されるなか、学校と家庭・地域が一体となった社会総がかりによる連携・協働する取組を進めていくことがより一層求められている。

こうした中、特別支援学校では、障害のある子どもの自立と社会参加に向けて、人間関係づくりやコミュニケーション能力の育成等が課題となっており、外部専門家等との連携・協働による授業実践や販売活動、地域との連携・協働による特産物を活用した商品開発、多くの方々との日常的な交流を通じた実践的・専門的な職業教育、地域に開かれた教育活動の展開が求められている。

一方、地域においては、少子高齢化とともに「長寿社会」を迎え、経験豊富な高齢者が増加傾向にあるものの、これまでの経験や培ってきた専門性を披露する場や地域のコミュニティとなる憩いの場が不足している。高齢者が、それまでの長い人生の中で培ってきた豊かな知識・経験を生かすことができる機会や場所を見いだし、地域社会の担い手として活躍することは、高齢者の生きがいにつながるばかりでなく、活力ある社会の形成にもつながるものである。

今後、ますます少子化が進み、高齢化率が高まる萩市において、様々な社会の課題を解決していくためにも、より一層多くの経験豊富な高齢者のマンパワーは、地域の活性化や特別支援学校の教育の充実に向けた重要な視点である。

このため、本事業の活用により、特別支援学校（本校・分教室）と社会福祉協議会や老人クラブ等との連携・協働による「地域・学校協働活動」を通じて、本校教育の充実と高齢者のコミュニティとなる憩いの場づくり・「生きがい・やりがい」づくりを一層促進し、地域・学校の差し迫った社会的・地域的な課題解決と地域の活性化等に取り組むたいと考えた。

2 取組の概要

（1）地域等との連携・協働活動について熟議・協議

- ・本事業の円滑な推進及び協働活動を充実するための方策について
- ・地域のニーズと学校のニーズを踏まえ、生きがいややりがいにつながる協働活動や地域のコミュニティとなる憩いの場づくりについて検討
- ・協働活動の具現化に向けた情報収集 等

（2）ゲストティーチャーの参画による授業実践

①後小畑寿会老人クラブとの連携・協働活動

- ・夏みかんCaféにおける接遇サービス
- ・スポーツや昔遊び、花壇づくりを通じた交流活動

②ジョイントネット萩「草の芽」による読み聞かせ

③その他

- ・笑いヨガ教室を通じた交流
- ・陶芸家による陶芸教室
- ・大学や小学校と連携した清掃活動
- ・地域の方との「安全・安心な地域の防災について考える会」(熟議)
- ・CS通信「はぎの一と」による地域への情報発信

3 具体的な取組内容

(1) 地域等との連携・協働活動について熟議・協議

地域等との協働活動を実施するに当たり、地域等の状況を把握するため、社会福祉協議会や老人クラブとの協議を通じて、学校ができる活動や地域が求めている活動・ニーズ等の調整、情報収集を行うとともに、コロナ禍でできる活動について情報を共有した。



(2) ゲストティーチャーの参画による授業実践

①後小畑寿会老人クラブとの連携・協働活動

多くの経験豊富な高齢者や地域の方との交流を通じて、子どもたちの教育の幅を広げるとともに、日常的・継続的な交流を通じて、人と関わることの楽しさも学ぶことができた。

- ・夏みかんCaféにおける接客サービス



- ・スポーツや昔遊び、花壇づくりを通じた交流活動



②ジョイントネット萩「草の芽」による読み聞かせ

地域の方に来校していただくことにより、挨拶や聴くときのマナーなど、社会性を育むことができた。エプロンシアターや大型絵本、人形劇等、バラエティに富んだ演目で、児童はみんな惹きつけられていた。キーボードの生演奏も交えながらの演出で、楽しく視聴することができた。



③その他

- ・笑いヨガ教室を通じた交流活動



- ・陶芸家による陶芸教室



- ・大学や小学校と連携した清掃活動



- ・ 地域の方との「安全・安心な地域の防災について考える会」(熟議)



- ・ CS通信「はぎのーと」による地域への情報発信



4 成果と課題

少子高齢化や新型コロナウイルス感染症の感染拡大による交流活動の減少などにより、これまで以上に子どもがいろいろな世代の人と触れ合う機会が少なくなり、体験活動の不足や社会性・規範意識の低下等、子どもたちを取り巻く環境が複雑化・多様化している状況の中、社会福祉協議会や老人クラブ会等の地域や大学等との協働活動、外部専門家の招聘による授業実践を通じて子どもたちの学習の幅を広げ、人との触れ合いの大切さや接遇マナーの習得などを着実に進めることができた。

また、学校からの一方的なお願いや取り組みにならないよう、熟議を通じて地域の思いと学校の思いをすり合わせることにより、相互理解を踏まえたうえで、地域の憩いの場・活性化及び教育活動の充実に資するべく様々なアイデアが生まれ充実した取り組みになっていると考える。

さらに、外部人材の参画による授業実践は、教員の働き方改革の1つとして本校教育の充実に資することができた。

今後も、地域等との協働活動や交流活動を一層推進するとともに、障害や障害のある子どもへの理解を促進させ、これまでの経験や知識、技術をもった地域の方の活躍の場づくり、コミュニティとなる憩いの場づくりにも貢献し、生徒の自立と社会参加の推進、共生社会の実現に向けて一層推進していきたい。